



建築技術性能証明書

技術名称：H-AP 工法—H型 PC パイル圧入工法—（改定2）

申込者：株式会社アオモリパイル 代表取締役 地代所 久恭
青森県八戸市城下一丁目17番20号

技術概要：本工法は、オーガーを用いて地盤を掘削した後、掘削孔中に H 型断面を有するプレストレストコンクリート杭を建て込み、これに圧入力を作用させることで所定の深度まで貫入させる杭工法である。本技術は、2007年3月6日に(財)日本建築総合試験所 建築技術性能証明 第06-23号として性能証明されたものであり、2009年5月12日の改定では、施工管理における管理値の変更を行っており、今回の改定では、先端地盤が粘性土地盤の場合の最大施工深さの変更を行っている。

開発趣旨：本技術は、戸建て住宅等の小規模建築物を対象として、低振動・低騒音杭工法であり、かつ、残土の発生がない環境面にも配慮した工法として開発したものである。また、施工時にリアルタイムで圧入力を計測することで、確実な施工管理を行うことができる技術である。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成23年2月14日

財団法人 日本建築総合試験所
理事長 辻 文 三



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

資料①：性能証明のための説明資料

②：設計・製造・施工基準

③：載荷試験資料

資料①には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料②は、本工法の設計・施工基準であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、杭の製造基準、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料③には、資料①で用いた個々の載荷試験結果報告書等が取りまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する施工基準に従って施工された H 型断面を有するプレストレストコンクリート杭の許容支持力を定める際に必要な地盤の極限鉛直支持力は、設計基準に定めるスウェーデン式サウンディング試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できると判断される。

建築技術性能認証委員会委員

委員長	松井千秋	九州大学	名誉教授
副委員長	窪田敏行	近畿大学理工学部	特任教授
委員	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部	准教授
〃	内田直樹	(財)熔接研究所	理事
〃	大野義照	大阪大学	特任教授
〃	金子佳生	京都大学大学院工学研究科	教授
〃	桑原進	大阪大学大学院工学研究科	准教授
〃	甲津功夫	大阪大学	名誉教授
〃	小林克巳	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	鈴木祥之	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	教授
〃	田才晃	横浜国立大学大学院工学研究院	教授
〃	田中哮義	京都大学防災研究所	教授
〃	田中剛	神戸大学大学院工学研究科	准教授
〃	谷川恭雄	名古屋大学	名誉教授
〃	富永晃司	広島大学	名誉教授
〃	中塚侑	大阪工業大学工学部	教授
〃	平石久廣	明治大学理工学部	教授
〃	三谷勲	神戸大学	名誉教授
〃	南宏一	福山大学工学部	教授
〃	山崎雅弘	岡山理科大学総合情報学部	教授
〃	井上一朗	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	センター長
〃	益尾潔	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	審議役
〃	永山勝	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	部長

H-AP 工法

—H型PCパイプ圧入工法— (改定2)

評価専門委員会委員

主査	富永晃司	広島大学	名誉教授
委員	下平祐司	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	室長